

山都町結婚対策事業「YOU & YOU」では、令和2年度は、「少人数での交流会」や「個人紹介」に重点を置き活動を行っています。2月号の広報やまとは「交流会」の流れをご紹介します。

①山都町役場ホームページで、交流会情報をチェック

→申し込み  
※会員登録をしていただくと、情報が優先的に届きます。

②交流会当日

参加者全員と1対1の自己紹介タイム&フリートークで相性をチェック

③交流会終了後

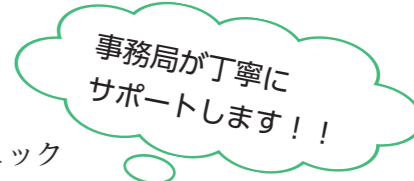
配布するアンケートに“気になった異性”を記入して事務局へ返送

④事務局にてアンケート結果を確認

相手と一致していた場合、事務局からお互いへ連絡  
(相手に連絡先を教えていいかを確認いたします。)

⑤了承確認後、男性から女性へ連絡

⑥お互いに連絡をとり“意気投合すれば交際スタート”



登録手続きに関してなど、お気軽に事務局、またはお近くの結婚相談員までお声掛けください。事務局一同お待ちしております♪

問合せ先 YOU&YOU事務局 (役場 山の都創造課) 坂元・吉田  
【電話番号】0967-72-1158【専用電話】090-9565-9589  
【専用アドレス】marriage.support@town.kumamoto-yamato.lg.jp



やまと文化の森だより



企画展のご案内

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、内容が変更になる可能性があります。

○さんさんなかま作品展

期間：2月2日～2月26日 ※最終日は15:30までの展示となります。  
今年も町内小中学校特別支援学級の子どもたちによる作品展を開催！子どもたち一人一人が自分で思ったこと感じたことを版画や絵画、工作などで表現しています。見ている方が元気になるような、子どもたちの温かくそして個性あふれる作品の数々をお楽しみください。

○翻訳家村岡花子の生涯と写真家吉村和敏の写真で見る「赤毛のアン」展

期間：2月2日～3月28日 ※最終日は15:30までの展示となります。  
大きな目、そばかすだらけの顔、そして赤毛の女の子「アン」は、翻訳家村岡花子により日本の子どもたちに夢や希望を与えてくれました。そんな村岡花子の生涯を通して「赤毛のアン」が日本の読者に誕生するまでを写真家吉村和敏の美しいプリンスエドワード島の写真とともに展示します。文化の森で「赤毛のアン」の世界に浸り、村岡花子が「赤毛のアン」を通して伝えたかったものを感じてみませんか。

○大きなもみじの木を寄贈いただきました！

町内の有志の方よりもみじを寄贈いただきました。  
これは、立木に鳥が集まるように文化の森が皆さんの心の拠りどころとなるような場所になってもらいたいという想いから、ご厚意でもみじを植樹いただいたものです。文化の森のシンボルツリーをどうぞ間近でご覧ください。



問合せ先 山都町下市16番地 ☎72-9400 開館時間 9:00～17:00 入館無料  
休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日又は振替休日の場合はその翌日)、年末年始等

わたしたちの人権

191

誰もが人間として生きていくうえで  
侵すことのできない当然の権利  
これが『人権』です

人権作文紹介

今月号では、矢部高校普通科一年生の井上葉那さんの人権作文をご紹介します。

人権学習で学んだこと

世の中には色々な人がいる。こんな言葉を考えたことは誰にでもあるだろう。しかしこの「色々な人」という言葉について深く考えたことはあるだろうか。私は単に人それぞれがそれぞれの考え方をしている、というようにしか考えたことではなく、深くとまではいかなかった。しかし、このことについて深く考えられるきっかけとなったのが、高校での人権学習だった。

小学校から人権学習をしてきて、部落差別についても水俣病や戦争についてなど、たくさん学んできた。高校入学後、初めての人権学習は部落差別の歴史について学習をした。驚くことに部落差別は平安時代から続くものであった。この事



実際に、私は驚くと同時に悲しくなりました。今からおよそ千年前の時代から、部落差別によって苦しむ人々がいると思うと、胸が痛くなったから

だ。部落差別について、まだまだ知るべきことはたくさんあると改めて人権学習の大切さに気づくことができました。

また、今回の人権学習を始める前に、先生が話された「ポテサラ論争」についても考えた。ポテサラ論争とは、ある男性が、子連れの母親に「母親ならポテトサラダくらい作ったらどうだ。」と言いつつ、という事が、SNS上で論争になったという一件だ。私はこの男性が母親に言い放った言葉の中の「母親なら」という言葉に腹が立った。現代の社会は母親に子育て、父親に仕事という昔からの考えが根強く残っており、問題となっている。

初めに、世の中には色々な人がいる、と書いたが、確かに母親は料理をすべきだ、などといった考えを

持っている人もいるだろう。ただそこで考えてほしいのが、その考えは自分の勝手な解釈であり、偏った固定概念に過ぎないということだ。自分の中だけの考えであって、必ずしも全ての人がそのように考えているわけではないのだ。人それぞれに違った、色々な考えを持っている。また、見方を変えれば、その考えも変わることもあるだろう。

十人十色という言葉があるように、人それぞれ違った考えを持っていて、この考えの違いを噛み合うのではなく、お互いに理解することが大切だと思う。

世の中のこの「色々な人」のそれぞれの考えを、それぞれの「個性」として、上手く共存していけたら良いと思う。

女性の人権

男女が対等なパートナーとして  
尊重し合える社会に

熊本県の女性の就業率は、全国的にも比較的高くなっていますが、出産・育児期には落ち込んでいます。その要因としては、育児負担が女性に偏っていることや、長時間労働等を前提とした女性が働きにくい就業

家事や育児の主役は…？！



環境などが挙げられます。仕事と家庭・地域生活の両立のため、就業意欲のある女性が継続して働ける環境の整備や、育児・介護サービスの充実を図るとともに、男性の家庭や地域生活への参画が可能になるよう働き方の見直しを進める必要があります。

また、性差別意識や固定的な性別役割分担意識は、セクシュアル・ハラスメント(セクハラ)やドメスティック・バイオレンス(DV)など、女性に対する暴力や人権侵害につながっているともいわれています。

熊本県人権同和政策課作成「人権研修テキスト・人権全般編(平成30年度(2018年度)版) P6より抜粋